

三原市立中之町小学校

(<http://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/es-nakanocho/>)

校長：岡田 恵子

所在地：三原市中之町六丁目 4-1

連絡先：☎ 0848-62-3244

—複数校で合同実施することの意義—
—目的に応じた柔軟なプログラム設定—

1 集団宿泊活動の概要

(1) 期 間：令和元年9月17日(火)～20日(金)

(2) 場 所：広島県立福山少年自然の家

(3) 人 数：中之町小学校59名，三原小学校71名，深小学校5名(計135名)

(4) 目 標：3泊4日の活動の中でミッションを班で乗り越えながら，仲間と本気で関わって，よりよい集団になる。

(5) 日 程：

	1日目	2日目	3日目	4日目
午前	●オリエンテーション ●SAF (Step of Adventure in Fukuyama)	●野外炊事	●野外炊事	●感謝の会に向けた準備
午後	●表現ドミノ	●〇〇リレー，大縄大会	●壁掛け作り	●感謝の会
夜	●全体会	●ダンス大会	●キャンプファイヤー	



2 集団宿泊活動の特色

(1) 複数校での合同実施に当たって

三原市立中之町小学校は、同じ中学校区である三原小学校と深小学校と合同で集団宿泊活動を行っています。このように、複数校で合同実施している事例は他の市町にも見られますが、それにはどのような意義や効果が期待されるのでしょうか。この合同実施に関連すると考えられる3校の取組を一つ挙げてみます。

他校の児童との複数の班編成

4日間、様々なプログラムに取り組むにあたり、全部で3種類の他校の児童との班を編成しました。こうすることで、自校の他のクラスの児童と関わるのはもちろんのこと、他校の児童と関わる場面も増え、より多くの新しい仲間との出会いと協働が実現しました。自分がこれまで一度も顔を合わせたことのない仲間とプログラムをこなすことに対して、いろいろストレスもあったでしょうが、それ以上に大きな意味があったのではないのでしょうか。

●単独校で4日間通して班を固定した場合（イメージ）



出会うことのできる人数は同じ学校の4人

●複数校で4日間で3種類の班を編成した場合（イメージ）



出会うことのできる人数は同じ学校の6人と他校の6人の計12人

班の班員を固定して4日間を過ごすことにも、班を複数回編成して、その度ごとに班員を新しくすることにも、それぞれ異なる意味があります。班員を固定すると班員間のきずなが深まったり協働関係が強まったり、活動が円滑に行えるようになったりすることが考えられます。一方で、班員を何度も新しくすると、より多くの出会いがあり交流関係が広がるでしょうし、いろいろな考え方や個性を持つ仲間に出会う可能性が高まります。

大切なことは、集団宿泊活動での目標やねらいを明確に設定し、それらの目的やねらいの実現のためにどのような班編成が必要かを考え、最適だと考えられる班を編成することです。この3校の合同実施に当たっては、1年半後に同じ中学校に通うことになることを見据えて、いわゆる「中一ギャップ」をできるだけ解消できるよう、他校との交流の一環として取り組むというねらいがありました。そこで、より多くの他校の仲間との出会いの場面が設定できるよう、複数回の班編成を選択したのです。



POINT

目標やねらいに応じてプログラムごとに班編成を変えるなど柔軟に対応することで、集団宿泊活動の効果を高めることができる。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」（以下、解説という。）には、次のように示されています。

カ（中略）また、集団宿泊活動については、よりよい人間関係を形成する態度を養うなどの教育的な意義が一層深まるとともに、いじめの未然防止等や不登校児童の積極的態度の醸成や自己肯定感の向上等の高い教育効果が期待される。そこで、学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ、一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことが望まれる。その際、児童相互の関わりを深め、互いのことをより深く理解し、折り合いを付けるなどして人間関係などの諸問題を解決しながら、協調して生活することの大切さが実感できるようにする。（小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 p125）

平成29年告示の新しい学習指導要領では、特別活動において育成することを目指す資質・能力については、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえて特別活動の目標及び内容が整理されています。このことからわかるように、特別活動において人間関係を形成する力を育てることは最も重要な目標の一つであり、その意味においても、集団宿泊活動を複数校で合同実施することには大きな意義が感じられます。同じ中学校への進学に向けた「心の準備」という意味でも、異なる小学校の児童同士の円滑な人間関係の形成に果たす役割は大きいのではないのでしょうか。



(2) 同じプログラムを2回行うことの意味

この3校の集団宿泊活動では、4日間の中で「野外炊事」を2日目の午前と3日目の午前に2回行っています。同じプログラムを4日間で2回行う事例はそれほど見られないのですが、これにはどのような効果があるのか考えてみます。

野外炊事

4日間の中で、2日目と3日目に野外炊事のプログラムを設定しました。作る料理のメニューも2回とも同じ「カレーライス」としました。1回目は火が途中で消えてしまい、施設の指導者の方に付けてもらった班があったり、水の量を量り間違えてカレーライスならぬ「ドライカレー」のようになった班があったりしましたが、2回目は1回目の反省を踏まえて、どの班も工夫して美味しいカレーをつくることができました。また、1回目に作るとき、カレーライスの中にたき火の灰が入ってしまったことがあったりしましたが、その班は調理中はお皿を裏返して置いておき、皿によそう直前に表に返すなど、調理工程以外のところにも注意を向けていました。



同じプログラムを2日間で2回行うことで、児童は、1回目の経験をもとに2回目にどうすべきか考えるようになります。また、先生方もどの班がどのような工夫をしているのか、しっかり確認することができるようになります。さらに、班内での役割分担の変化や児童間のコミュニケーションのとり方の変化などにも気付くことができます。2回同じプログラムを行うことを児童は知っており、1回目が終了した後、2回目に向けて何をどのように改善すれば、より効率的に美味しいカレーライスができるか、先生が指示しなくても自分たちで自発的に考え始め、計画を立てるようになります。

これに関連すると思われることが「解説」には次のように示されています。

(中略) 一見すると学級全体で協力的に実践が進められているように見えても、実際には教師の意向や一部の限られた児童の考えだけで動かされていたり、単なるなれ合いとなっていたりする場合もある。このような状況は、特別活動の学習過程として望ましいものとは言えない。(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編p16)

(中略) 集団における合意形成では、同調圧力に流されることなく、批判的思考力を持ち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切である。そして、異なる意見や考えを基に、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることが、「互いのよさや可能性を發揮しながら」につながるのである。(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編p16)

1回目のカレーライスづくりでは、先生が指示を出しすぎていたり、児童間の役割分担がうまくなされておらず、一部の児童が参加できていなかったりするかもしれません。その際に、2回目設定されていれば、それに向けて改善を図り、各自の考えを落ち着いて聴き合いながら、全員が参加できる野外炊事が実現できることとなります。

こうしたことを常に念頭に置き、特別活動における集団活動の指導に当たっては、児童一人一人を尊重し、児童が互いのよさや可能性を發揮し、生かし、伸ばし合うなど、よりよく成長し合えるような集団活動として展開することが求められます。また、児童が自由な意見交換を行い、全員が等しく合意形成に関わり、役割を分担して協力するといった活動を展開する中で、所属感や連帯感、互いの心理的な結び付きなどが結果として自然に培われるようにすることも大切です。



POINT

目標やねらいに応じて、同じプログラムをあえて複数回実施するなど、プログラム設定について柔軟に対応することで、教員が児童の成長する姿を具体的に確認できたり、児童自身が自分たちの成長を実感できたりする体験活動が実現できる。

(3) 児童の主体性を引き出す

「解説」(4)遠足・集団宿泊的行事 ②実施上の留意点 には、次のように示されています。

ア 計画の作成に当たっては、児童が自主的、実践的に活動できるような場を十分に考慮し、児童の意見をできるだけ取り入れた活動ができるようにする。(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 p125)

このことを具体的に実現できるようにするために、児童による実行委員を立ち上げ、集団宿泊活動の内容を決めるなど、計画段階から当日の司会を担当するなどの運営のところまで児童が関わっていけるようにしました。

実行委員制度

4日間のすべてのプログラムについて、各学校の児童の実行委員が企画と当日の運営にあたるようにしました。「表現ドミノ」「野外炊事①・②」「〇〇リレー・大縄大会」は三原小学校の実行委員が、「ダンス大会」「感謝の会」は中之町小学校の実行委員が、「壁掛け作り」は深小学校の実行委員がそれぞれ担当しました。どのような内容をどのような手順で行うのか考えて提案し、当日は担当プログラムの司会も行いました。企画段階から運営まで実行委員である児童中心で進めることができました。

中之町小学校では、クラスマッチやお楽しみ会、異学年交流行事など、年間を通じて様々な学校行事で児童の実行委員が活躍します。実行委員の会が終わると、必ず振り返りを行います。目

的や目標は達成できたか、失敗したのはなぜか、どうしたらよりよくなるか、などについて実行委員で話し合います。今回の集団宿泊活動においても、失敗を前向きに捉え、失敗から学ぶことを大切にして取り組みました。



POINT

体験活動のプログラムについて、当日の運営だけでなく、学校での計画段階から児童が関わることができるようにすることで、児童に「参画」の意識が生まれ、主体性や積極性が高まる。

3 児童の感想

集団宿泊活動を終えた児童の感想の一部です。複数校での合同実施を通してしっかり成長した児童の姿があります。

◆ 実行委員を終えて ◆

私は体験活動の実行委員を通して、未来のことを考え、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりすることができました。心の距離を縮めるには、空気を読み、互いに理解し合うことが必要だと学びました。

◆ SAPを体験して ◆

体験活動で、初日はしおりを見ても自ら動けませんでしたが、時間が経つにつれて、しおりを見て先を見通し、時間内に行動できるようになりました。次にすべきことを考えて生活することの大切さを実感できました。

◆ 様々な人々に感謝 ◆

私は体験活動の中で、自分たちの活動が進むように、先生方やスタッフの方々が支えて下さっていることに気づきました。そして、日々の生活でも誰かが誰かを支えあっていることを知りました。私は今まで関わってきた人々に感謝がしたいです。

◆ こんな中学生になりたい ◆

私は、みんなから頼られて、どんな場面でも自ら動ける中学生になりたい。そのために、今、先を見通して仲間に声をかけています！

ぼくはしっかりとメリハリをつけて周りを優先する中学生になりたい。そのために、一つ一つのこと本気で取り組み失敗を大切にしています。

ぼくは授業で分からないところがあっても、自ら考え続けやりきる中学生になりたい。そのために、今、授業の中で、仲間と本気で話し合っって考えを深め、一つ一つの課題をやりきる、ということを頑張っています。